

中間試験 (2022.05.20.実施)

はじめに

- 1) 中間試験の意味
  1. 講義理解度を自己点検する
  2. 答案（レポート・論文等）の書き方練習
  3. 成績評価は毎回の講義での試験を重視して行うが、中間試験と最終試験も加味する
- 2) 試験内容
  1. 設問の「1」から「3」は毎回の自己点検で記述する内容と同様
  2. 定期試験内容と同じ形式、今回の試験範囲である労働団体法分野も、定期試験の試験範囲
- 3) 持込許可：許可六法のみ
- 3) 返却：5/25 のみに返却する（それ以外の時間には返却しない）
- 4) 試験時間：30分

問題

以下の①から②の新聞記事のうちから一つを選び、次の点につき答えなさい。

1. 記事において問題となっている労働法上の論点
2. その論点の前提となる法内容の説明
3. その論点に関する諸説
4. その論点に関する自らの見解

注意：1. いずれの記事を選択したのかを明記すること。  
2. 出題への解答に直接関係のない事項を記入した場合には、答案を無効と扱う。  
3. 採点基準（50点満点で採点する）  
a) 設問の1. から4. の項目毎に、基本的には○△Xの三段階評価を行う。  
b) ○は必要なことが述べられている場合につけ、10点。  
△は不十分にしか述べられていない場合につけ、5点。  
Xは何も述べられていない、ないし関係ないことを述べている場合で、0点。  
c) 独創的な考えがみられた場合には、各問共に10点の範囲で追加点をつける。

①阿久根市事件

朝日新聞 2009年10月23日

鹿児島県阿久根市の竹原信一市長（50）が、市庁舎にある市職員労働組合事務所の使用許可取り消し処分を決め、市職労が市と市長を相手取り処分取り消しを求めていた訴訟。竹原市長は退去通告時には「市職労は長年使用料や光熱費を払っておらず、不当な便宜供与。市民の役に立っていない」と理由を説明した。

②エクソンモービル事件

朝日新聞 2005年06月25日

名古屋市港区のエクソンモービル名古屋油槽所で03年8月、作業員6人が死亡した火災で、団体交渉で会社側が事故経過を明らかにしないのは不当として、エクソンモービル社（東京）のスタンダード・ヴァキューム石油自主労働組合は24日、救済の申し立てをした。同労組によれば、事故経過などを明らかにするよう会社側に団体交渉を通じて、30回以上にわたり要求。当初、会社側は「警察、消防が調査中」などを理由に事故経過の公表を拒否。今年4月の団体交渉からは「事故そのものの扱いは団体交渉事項ではない」と説明を拒否したという。